



国民の森林・国有林

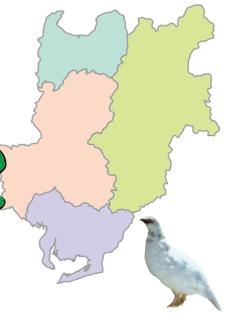
林野庁
中部森林管理局

〒380-8575長野市大字栗田715-5
☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>

広報

中部の森林



メールマガジン登録で発行を毎月お知らせします。
登録サイト：<https://mailmag.maff.go.jp/m/entry>



中部森林技術交流発表会を開催 審査員の質問に答える長野県林業大学校生

(記事は2ページ)

主な項目	○ 中部森林技術交流発表会を開催	P 2
	○ 各地からのたより	P 5
	○ シリーズ「森林官等からの便り」	P 8
	○ シリーズ「ご当地自慢」	P 9
	○ 4月の見どころ聴きどころ	P 10

平成二十九年 度 中 部 森 林 技 術
交 流 発 表 会 を 開 催

「技術普及課」一月三十日から三十一日
にかけ、中部森林管理局大会議室におい
て、「平成二十九年 度 中 部 森 林 技 術 交 流
発 表 会」を 開 催 し ま し た。

この発表会は、管内の国有林及び民有
林の行政・教育・研究機関、林業事業体
等が、森林・林業に関する試験研究、事
業で実証した先進的な技術や森林環境教
育の取組等について、発表・紹介を行う
ことにより、その成果を普及し、更なる
森林・林業及び木材産業の発展を目的と
して毎年開催しています。

今年度は、国有林関係から十六課題、
民有林・学校関係等から十六課題の合わ
せて三十二課題が発表されました。



研究成果を発表する高校生

開会にあたり、宮澤局長から、「今回
の交流発表会では全部で三十二課題、幅
広い分野について発表していただきます
が、本場に忙しい業務あるいは学業の中
で取組まれたものであり、今までのご苦
労に感謝を申し上げますと共に、良い発表
となりますこと、そしてまた、その発表
を巡って真摯な議論がされることを期待
しています。

本日・明日の発表される研究の中身
が、将来の森林林業の発展に寄与するこ
とを心から願います。」との挨拶があり
ました。

引き続き「森林技術」、「森林ふれあ
い」、「森林保全」の部門ごとに林業の低
コスト化や、地域と協働した取組、独自
に着目して掘り下げた課題や新たに取り
組まれた開発課題など、勉学・業務研究
により得られた成果が発表されました。

一日目の発表会終了後には、国有林関
係について、信州大学農学部岡野哲郎教
授から、二日目は民有林・学校関係につ
いて名古屋大学大学院生命農学研究科田
中隆文准教授から講評をいただきました。

また今回の発表会においては、森林総
合研究所東北支所齋藤智之氏より「中部
地方におけるスズタケの一斉開花」と題
して特別講演が行われ、タケ・ササ類
の生活史特性、熱帯のタケの開花周期、
日本のタケの開花周期、中部地方のスズ
タケ一斉開花の特徴をわかりやすく解説



特別講演より「スズタケの花序」

していただきました。

今年度は、例年より多い課題の応募が
あったり、発表者・聴講者等を含め二日
間で延べ四百名近くの方に参加いただき
ました。

中部森林管理局では、引き続き、森
林・林業技術の推進と普及に向け、各署
等での技術開発に取組むとともに、民有
林関係者との共働・協調など地域との連
携を深め、情報発信に積極的に取り組ん
でいくことにしています。

受賞課題と受賞者は次のとおりです。

(発表順で掲載)

● 国有林関係

※局長優秀賞

・付属路の開設による効率的な生産事業

への取組

北信森林管理署 西方雄一郎(写真左)

岡本 守(写真右)



・国有林における無人航空機の計測的活
用

飛騨森林管理署 三谷果穂(写真左)

本間丈瑠(写真右)



・岐阜森林管理署のニホンジカ対策
 〈職員意識向上と職員捕獲の取組〉
 岐阜森林管理署 小原弘明(写真左)
 日吉晶子(写真右)



・長野県軽井沢町における数刈り作業
 東信森林管理署 下岡正幸(写真左)
 軽井沢西地区国有林数刈り実行委員
 会 打越綾子(写真右)



※局長努力賞

・自然環境に配慮したコンテナ苗による
 治山緑化工
 中信森林管理署 帆足 郁
 向山 剛

・金沢山ヒノキ林分における漸伐作業の
 取組
 南信森林管理署 竹内智絵
 源田聡子

信州大学 松井美希子
 齋藤仁志
 植木達人

・木曾ヒノキ天然更新補助にかかる取組
 〈ササ処理方法からみえてきたもの〉
 木曾森林管理署 早川幸治
 酒井 武

森林総合研究所 星野大介
 齋藤智之

木曾森林ふれあい推進センター
 黒田 誠

・多様な森林への誘導に向けたモデル林
 における取組
 南木曾支署 南坂博和

・自然侵入促進工による林地復旧の取組
 伊那谷総合治山事業所 佐藤義和
 株愛鉦 原大吾郎

・ドローンを活用するために
 岐阜森林管理署の取組
 岐阜森林管理署 平枋潤己

・高標高地、遠隔地における森林整備等
 の課題整理
 富山森林管理署 千村知博

・列状間伐がヒノキの成長に与える影響
 について
 樹幹解析による成長量の評価
 森林技術・支援センター 三村晴彦
 堤 隆博

・ササの一斉開花に伴う森林への影響
 について
 愛知森林管理事務所 野口和幸
 齋藤智之

・裏木曾登録ガイド制度の取組について
 東濃森林管理署 伊藤章代
 安藤康生

・一〇〇年先の森林づくり発表会の開催
 国・県・市が連携した地域での取組
 岐阜森林管理署 大島愛彦

・王滝村における森林・林業体験交流促
 進対策事業の取組について
 木曾森林管理署 松原正志
 瀧本りりこ

●民有林関係機関、各種団体

※森林・林業振興賞

・北アルプス雲ノ平における十カ年実施
 した官民学協働による植生復元活動に
 ついて
 雲ノ平山荘代表 伊藤二朗
 東京農業大学 下嶋 聖

・富山森林管理署 千村知博

・岐阜県東白川村国有林のヒノキ人工林
 における水源涵養機能改善に向けた調
 査研究

サントリーグローバルイノベーション
 センター(株) 川崎雅敏
 阿部 豊

・筑波大学 恩田裕一
 ・シカ食害地の防除方法の比較検討につ
 いて 高橋克明
 池神真奈美

・「南信州鳥獣害対策アカデミー」によ
 る地域全体の情報共有とスキルアップ
 セミナー 久保田淳

・長野県南信州地域振興局 中谷和司

・岐阜県飛騨農林事務所 中谷和司
 たかやま林業・建設業協同組合

・根鉢の低いヒノキ・コンテナ苗の育
 苗と植栽初期の成長
 岐阜県森林研究所 渡邊仁志

・森林技術・支援センター 三村晴彦
 茂木靖和

・一・五年生ヒノキ・コンテナ苗の育成
 条件の検討 堤 隆博

・岐阜県森林研究所 茂木靖和
 渡邊仁志

●大学、高校等

※奨励賞

・城山における生物モニタリング

長野県林業大学校 南坂拓枝
 チェーンソー伐倒作業を中心に置いた
 技術マニュアルの作成
 海外とのルール比較

長野県林業大学校 高山亮介
 藤原涼太
 堀井拓人

森林路網がスギ人工林内の植物種多様
 性に及ぼす影響
 信州大学 孝森博樹

ヒノキ漸伐林における終伐後の林分状
 況と造林費の推定
 信州大学 松井美紀子
 斎藤正志
 植木達人

南信森林管理署 藤井 勝
 竹内智絵

ヒノキ人工林における枝と死節の分
 布特性
 岐阜大学 山本敦也
 (株)佐合木材 岩室宏基
 岐阜大学 石田 仁

県産材でつくる画用木炭
 岐阜県立森林文化アカデミー 境田夕姫

赤外線センサーカメラを使用した演習
 林内の動物の生態調査
 演習林内でのモノレール活用と、林道
 との交差の施工方法について
 長野県木曽青峰高等学校 磯尾ちなみ



受賞者と審査関係者で記念写真

飛騨の森林から魅力発信！
 知る・学ぶ・伝える

岐阜県立飛騨高山高等学校

教えて学ぶ森林活用

一膳の箸を通した森林の役割や大切
 さの啓発
 長野県下高井農林高等学校

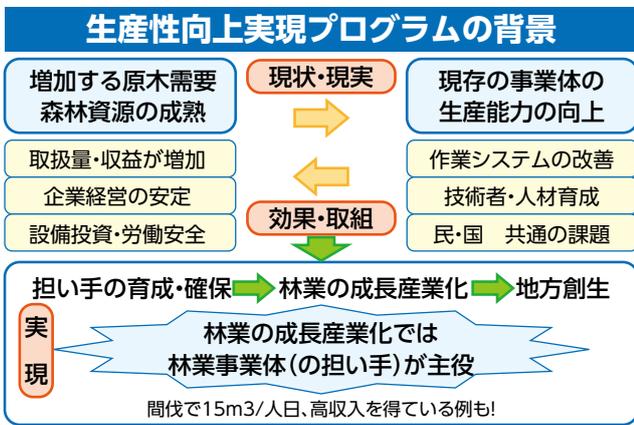
黒澤佳苗
 児野 稜
 坪田智大
 谷腰怜央
 岩本芽依
 大平悠斗
 小山竜生
 佐治行喜

生産性向上実現プログラム

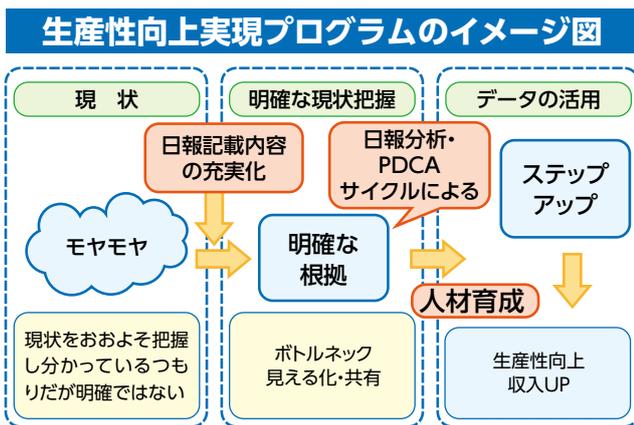
取組事例発表会を開催

「資源活用課」中部森林管理局では、同
 局大会議室（二月二十八日）と木曽森林
 管理署多目的ホール（三月一日）の二会
 場で、管内の素材生産事業者や県等から
 約二〇〇名、局署関係者約一〇〇名、総
 勢約三〇〇名の参加者を得て「生産性向
 上実現プログラム取組事例発表会」を開
 催しました。

生産性向上実現プログラムとは、国有
 林で発注する素材生産請負の事業地で、
 各署等一箇所のモデル事業地（全十一箇
 所）を選定し、素材生産能力の高い事業
 体を育成することを目的に実施している



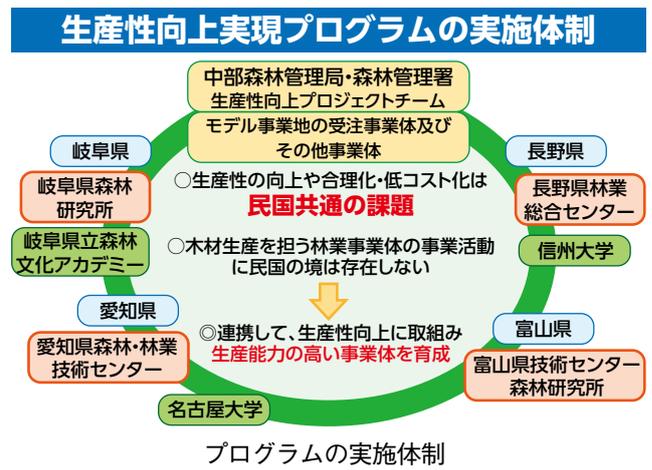
プログラムの背景



プログラムのイメージ図

本発表会では、地域の林業事業者の底
 上げとなる普及活動の一環として、今年
 度の優良な取組事例について発表を行い
 ます。具体的には、木材の伐採から
 玉切り造材、運搬までの一人一日当たり
 作業量の目標を示す目標生産性を設定
 し、作業者一人一人の作業日報の作成に
 よる工程毎の生産量の把握・分析を各日
 から数日単位のサイクルで行い、作業シ
 ステムの改善によりボトルネックの解消
 を図る取組です。また、事業期間中は、
 受注者と発注者である国、民有林を指導
 している県の出先や研究機関が共同で、
 事業の節目に現地検討会も含めたPDC
 A会議を行っており、平成二十七年年度か
 ら実施しています。

ました。最優秀賞を受賞した金山林業(有)では、生産(材)の流れを止めない作業仕組みによる生産性の向上を目指して、作業手を固定しないマルチ技能者の育成及び機械を遊ばせない人員配置から人を遊ばせない人員配置への転換により、目標生産性七立方メートル/人日に対し一四立方メートル/人日と、非常に高い生産性を達成しました。優秀賞を受賞した南ひだ森林組合では、ヒノキ高年齢級人工林の優良材が期待できる事業地で、軟弱な地質条件によりチェーンソーによる手造材と小型林業機械での集造材作業となったが、生産する丸太の品質の確保と生産性の向上を両立させて八立方メートル/人日の生産性を達成しました。同じく優秀賞を受賞した平澤



優良事例を発表中

林産(有)では、二回目以降の間伐が容易に実行できるよう測量により伐採列を一定方向で揃える取組やドローンによる上空からの事業地の確認、進捗管理の取組に加え、熱中症対策として小型ファン装着の空調服の着用など安全面での取組も評価されました。林野庁では、今後の十年間で生産性を倍増するとの目標を掲げ、当局が先駆けて取り組んできたこの生産性向上の取組が、現在、全国各地の森林管理局で取り組まれているところです。中部森林管理局では、全国に先駆け取り組んできた本取組を更に進めて、生産性だけでなく有利採材や安全な労働環境の改善も含め現地指導を行い、意欲と能力のある林業経営体を育成し、林業を「儲かる産業」とできるよう、平成三十年度も引き続き生産性向上実現に向けた取組を行うこととしています。



ヘリへの吊り上げ移送訓練

詳細は中部森林管理局HP (<http://www.rinyamaff.go.jp/chubu/>) をご覧ください。
各地からのたより
有事に備えて!
 ～山岳救助訓練に参加～
 「岐阜署」一月十八日、美濃消防署管内における山岳救助訓練が岐阜県美濃市にある古城山で行われました。古城山には国有林と岐阜県森林文化アカデミーの演習林、一般登山者向けの登山道があり、様々な人々が活動する場所となっています。



応急処置後林外へ移送

今回の訓練は、山中の要救助者の安全かつ迅速な救助技術の向上、関係機関の連携強化、県GIS山岳地図と演習林内マップの活用による発生場所の早期把握等を目的として行われ、中濃消防組合、岐阜県防災航空隊、岐阜県森林文化アカデミー、美濃市役所、岐阜森林管理署が連携して実施しました。

当日は、「国有林内で伐倒作業をしていた二名が倒木により負傷し、一人は頭部外傷、もう一人は倒木に挟まれ動けない」状況という想定で行われ、当署職員が一一九番通報を行いました。その後現場に駆けつけた救助隊が負傷者を天空が開けた所まで運び出し、防災ヘリコプターにより林外へ搬送するという流れで救助が行われ、通報からヘリコプターで搬送されるまでにかかった時間は約一時間半でした。

通報の際は、国有林の図面を内蔵したPDAにより、経度緯度で場所を伝えることができました。林内は場所を特定できる目標物がないが多いため、現在地を聞かれても位置を正確に答えることが難しいといえます。山に入る際には、こうしたGPS搭載機器を携帯することが重要であると感じました。

また、防災ヘリコプターに対しては発煙筒で場所を知らせていましたが、救助隊がない状況では太陽光を反射させるなど光を発してもらおうと上空から見つけやすいということを伺いました。ヘリコ

プターは風圧が強く、林内においては飛び散る枝葉に注意する必要がありますともわかりました。

事故が起きた時、通報者は、現場の情報を正確に伝えることが求められます。いざという時に適切な対応ができるよう、今後もこうした機会があれば参画し訓練を重ねていくことが大切であると考えています。

檜原谷地区森林整備推進協定を締結

〔岐阜署〕二月十五日岐阜県揖斐川町で、檜原谷地区森林整備推進協定の締結式を行いました。中部森林管理局では岐



檜原谷地区森林整備推進協定締結式（揖斐川町にて）

阜県内五地区で協定を締結しており、今回の協定は六事例目になりますが、揖斐川流域では初めての協定締結となります。

協定区域は岐阜県揖斐川町にある檜原谷国有林と隣接する民有林で、関係する岐阜署、森林整備センター岐阜水源林整備事務所、檜原谷林野組合、揖斐川町、池田町、(株)岐阜緑地、揖斐郡森林組合、岐阜県揖斐農林事務所の八者の代表者が協定書に署名しました。団地面積は五〇七畝(国有林及び官庁造林地二一九畝、民有林二八八畝)、協定期間は平成三十年四月一日から平成三十六年三月三十一日までの六年間です。

この団地の民有林はアクセスする林道がないことから、国有林の林道から民有林へアクセスする路網を整備し、民有林の森林整備、木材生産を推進します。また、国有林と民有林が連携・協力して木材の安定供給等を図ります。

協定期間である六年間の森林整備計画量は、森林作業道三、三五〇以、間伐五六畝。国有林では主伐も計画しています。

王滝村濁川の水質・生態調査報告会を開催

〔木曽署〕平成二十六年九月二十七日の御嶽山噴火から約三年半が過ぎた二月十九日に、木曽森林管理署で、「御岳山

“イモ虫”体型で口から吐く絹糸で営巣



トビケラ目
ヒゲナガカワトビケラ科
有機物を集めて食べる
Collector～収集食者

他に、落葉をかみ碎いて食べる
Shredder～破碎食者 など



カワゲラ目
カワゲラ科
他の昆虫を捕食する
Predator～捕食者

扁平な体型で匍匐して這い回る
代表的な水生昆虫



カゲロウ目
ヒラタカゲロウ科
藻類を食べるGrazer
～剥取り食者

扁平な体型で匍匐して這い回る

代表的な水生昆虫

(発表資料より)

麓・濁川の生きものとの水環境・酸性水・崩壊土砂・火山噴出物とそれに適応する水生生物の営み」と題し、火山灰を含んだ濁水が流れ下った王滝村濁川等のその後の水質や水生生物等について、噴火後から調査を行っている日本陸水学会東海支部会研究班により、関係者間の情報共有を図るため報告会を開催しました。

報告会では、御嶽山麓濁川の水質特性分布、濁川の強酸性水と付着藻類への影響、濁川水系のイワナの局所的な分布、水生昆虫群集の回復の四テーマで行われ、王滝川本流と濁川の合流付近ではPH五・九に対して濁川最上流の赤川ではPH二・九であったこと。王滝川本流

と濁川に生育している藻類を使ってそれぞれの河川水で生育状況を比べると、濁川の河川水は藻類の光合成・呼吸を阻害すること。イワナは、昭和五十九年（一九八四年）九月に発生した長野県西部地震で河床が攪乱され、さらに噴火による濁流により濁川や伝上川が影響を受けたことにより生息していないが、支流には局所的に生息している箇所があること。水生昆虫は、噴火後一年目は確認されなかったが現在は増加傾向にあること。これらは支川からの移入や耐酸性が考えられること。などが報告され、現段階は調査研究の途中であり、継続して調査を行う必要があるとのことでした。

私たちは、仕事柄、山を見ることを見ることが得意ですが、長野県西部地震や御嶽山噴火の影響を受けた濁川の水質や水生生物等について知見を広げる機会となりました。

森に生きる命に感謝

けもかわプロジェクトの取組とジビエ料理食会

【木曾署】ニホンジカをはじめとする野生鳥獣が農林業へ与える被害は全国的に深刻な状況となっており、農林水産省ではニホンジカの頭数を半減するとの目標を掲げ「抜本的な鳥獣捕獲強化対策」に取り組んでいるところです。

現在木曾谷地域では、他の地域から侵

入してきたニホンジカの生息範囲が拡大し、今後の農林業に与える被害が拡大する可能性があり、被害を抑えるためには捕獲し適正な生息数に戻す必要があります。

この捕獲したシカ等の野生鳥獣を森からの恵みとし、地域の資源として地域振興につなげることで、また、狩猟意欲の増進、新規狩猟者を獲得するため、有効な利用方法を普及し今後の鳥獣被害軽減につなげることを目的として、木曾森林管理署と木曾地域振興局が連携し、二月二十八日に鳥獣の利活用に関する講演会とジビエ料理を紹介する企画を実施しました。

第一部として開催した講演会には、地域の関係者はじめ県内外から約一三〇人が参加しました。

講演会では、捕獲される獣の命をただ



展示されたけもかわプロジェクトの製品

捨てるのではなく、暮らしの中で活かすモノにしたい、昔から利用されてきた動物の皮革（かわ）を今の時代に合ったモノに変えて使ってもらいたい、との願いをこめて長野県泰阜村でプロジェクトを立ち上げた、「けもかわプロジェクト」代表井野春香さんの講演をはじめ、長野県ジビエ振興室より長野県鳥獣害の現状報告、また、南信森林管理署におけるニホンジカ対策の取組や、木曾地域でケモノの皮や毛を利用して芸術活動を行う木曾ペインティングス代表岩熊さんの取組を紹介しました。

講演会後には「けもかわプロジェクト」の製品の展示と販売を行い、多くの方がシカ皮で製作された製品を購入していました。

第二部は上松町ねざめ亭でジビエ料理を紹介する食会を開催し、七十人以上の参加があり大盛況でした。

大町市でジビエ料理レストランを営業するジビエ料理研究家児玉信子さんが腕をふるい、ジビエ料理十一品を紹介しました。

匂いや調理方法が難しい印象のジビエですが、参加者は振る舞われたジビエ料理のおいしさに驚き、用意された料理は次々になくなりました。

食会の中で、シェフの児玉さん、けもかわプロジェクトの井野さん、木曾



ジビエ料理食会の様子

猟友会長の三尾さんの対談が行われ、狩猟の魅力やジビエ、皮の活用について経験者ならではのいろいろなお話を聞くことができました。

参加者の中には自分の家でも作りたいと、シェフの児玉さんに熱心に調理方法を聞く方や、自分でも狩猟免許を取得してみたいと言う声も聞かれました。

鳥獣被害対策は民有林国所有林共通の課題であることから、地域が一体となって共通の認識をもって取り組むことが重要であり、今回の企画に参加された地域の方々に野生鳥獣の被害の現状をご理解いただき、また、利活用に関心を持っていただくことで、今後の地域の農林業への被害を抑えることにつながるよう期待をします。

シリーズ
「森林官からの便り」

木曾森林ふれあい推進センターの紹介

自然再生指導官 小澤 益幸

木曾森林ふれあい推進センターは、長野県の南西部に位置する木曾郡木曾町福島に所在しています。

当センターの業務を紹介します。

平成二十九年度の重点取組事項であるニホンジカ被害対策について、平成二十八年度から中央アルプス木曾側の高山帯、亜高山帯及び山地帯においてセンサーカメラによる生息調査を行っています。

また、駒ヶ岳山麓においては、ライトセンサスによる生息調査を長野県、木曾署と連携して行い、現在ニホンジカの生息を確認した箇所への誘導柵の設置、餌付による誘引を併用しつつ、錯誤捕獲とならない用具を使用した実証試験を実施しています。

平成二十六年九月に発生した御嶽山噴

火災害等により、木曾谷への観光客の入り込みが低迷していることから、復興支援の一助とすべく名古屋事



ニホンジカ対策の実証試験



国有林野見学会で説明の様子

務所とタイアップし、支援ツアアの「国有林見学会」を開催しています。名古屋事務所職員が講師となり、参加される木曾川下流域の住民の皆さんに、木曾地域の林業のあゆみ、愛知県の熱田白鳥野木場までの木材運搬技術の変遷等の事前学習を行ってもらい、後日、赤沢自然休養林内において、木曾署及び当センター職員から木曾五木の見分け方、伊勢神宮との関係等の説明を行いながら、森林の魅力に実際に触れてもらいます。参加者からは好評を得ており、毎回募集を行えばすぐに定員に達してしまうほどの人気となっております。

「バズルラリー」は、森林に親しみながら森林の大切さを理解し、多くの方に木曾谷を訪れてもらうことを狙いに行っているもので、平成二十五年度に当センターで作成した「木曾路ナチュラルトレッキングマップ」を活用した「木曾路トレッキングコース」と、その普及版と



完成したパズル

して赤沢自然休養林内で完結する「赤沢自然休養林トレッキングコース」の二つのコースで開催しました。

パズルは、木曾の人工林ヒノキ間伐材の板にカラー印刷した絵を六分割し、六枚集めると絵が完成するもので、「木曾路版」は、木曾路美術館の協力により、江戸時代の浮世絵師「渓斎英泉」の木曾街道「馬籠」を、普及版の「赤沢版」は、中部森林管理局所蔵の林業遺産である木曾式伐木運材図絵の一場面を使用し、第四弾まで回を重ねています。平成二十九年十一月からは新たに、塩尻市賢川宿から中津川市馬籠宿までを北部と南部の二つに分けた「中山道木曾十一宿パ



教職員研修で説明に聞き入る参加者

ズルラリー」を開催しています。

当センターでは、従来から、林業体験や森林環境教育としての除間伐等の林業技術指導、学校に森林環境教育を積極的に導入してもらうため地元小中学校等の教職員を対象とした森林・林業体験学習会、中央アルプスでの植生復元作業、NPO・ボランティア団体への支援や技術指導を行ってきたおり、これらの活動に加え、世界的にも希少で貴重な存在となっている木曾地方のヒノキ、サワラ等の木曾五木を含む温帯性針葉樹林の保護と復元を目的とした「木曾悠久の森」に関する取組も始めました。

前身の木曾森林環境保全ふれあいセンター発足から十四年ほどと、歴史の浅い組織ではありますが、関係機関や署等との連携を深め、地域から親しまれるよう、今後とも多岐にわたる活動に取り組んでまいりたいと考えています。



職員一同 (右端が筆者)



滝巡りの拠点「巖立」高さ72m

飛驒の滝といえば乗鞍岳から落下する「平湯大滝」が有名ですが、日本三霊山のひとつ御嶽山の麓に位置する下呂市小坂町は、その豊かな水と急峻な地形により日本一滝の多い町として知られています。その数は落差五メートル以上のものだけでも



荒々しい肌を見せる断崖は御嶽山の火山活動新期の噴出である「摩利支天溶岩」が兵衛谷に沿って流下し固まったもので、溶岩の弱い部分が浸食によって数万年かかって流出し、溶岩流の断面が露出したものです。岩質は、両輝石安山岩で溶岩が冷えて固まるときに柱状の節理となります。岩壁の高さは約七十二メートル、幅

滝の多くは、当署管内の落合国有林内に所在し、これらの滝の様子を肌で感じられる滝巡りのコースがいくつか設定されており、詳しい専門のガイド付きで巡ることもできます。

◆巖立峡

溶岩で形成された、日本一の溶岩流の断面です。同じような崖壁が上流一七キロに渡って続いています。



轟音が響き渡る「唐谷滝」落差15m

約一二〇年もあり壮観ものです。噴火の年は、小坂川水力発電所の導水路掘削中に溶岩中から発見された「木片」を、平成四年に名古屋大学でカーボン測定し、約五万四千年前という年代が判明しました。

岸壁の対岸には「がんだて公園」があります。ここは滝巡りの拠点、常駐するガイド（NPO法人飛驒小坂二〇〇滝）が訪れた人々に滝巡りを説明してくれるほか、それぞれのコースガイドも行ってくれます。

滝巡りのコースは、がんだて公園から歩いて十五分程で味わうことができます



雨桶のような「あかがねとよ」落差14m



「根尾の滝」落差63m

策コースから、獣道を下ったり、狭い谷の秘境で川を横断する冒険コースまで、お年寄りから子供まで幅広いレベルに応じた滝巡りのコースが設定されています。

この「小坂の滝」は、地域の活性化と豊かな自然を活かした取り組みとして高く評価され、平成二十年八月に開催された「飛驒・美濃じまんミーティング」岐阜の宝もの認定式において「岐阜の宝もの」第一号に認定されました。

◆アクセス

車 東海環状自動車道

「富加関IC」より約九〇分

中央自動車道

「中津川IC」より約九〇分

鉄道 JR高山本線飛驒小坂駅下車

車で約二〇分

◆問い合わせ

NPO法人飛驒小坂二〇〇滝

<http://www.osaka-taki.com/>

下呂市小坂町小坂七六九

TEL 〇五七(六二)二二一五



上旬

① 1日頃 南信森林管理署敷地内の桜の開花 (南信署 伊那市)
伊那市内で例年一番早く開花します。

② 7～8日 こだわりの匠市 (南木曾支署 南木曾町)
日用品から楽しいおもちゃまで、職人技が光る工芸品が桃介橋河川公園に大集合。木工体験もできます。

③ 9日 (予定) 戸隠中学校巣箱掛け (北信署 長野市)
戸隠森林植物園 (戸隠山国有林) にて、昭和48年から地元の中学生在が実施している伝統ある巣箱掛けを行います。



中旬

④ 13日 能郷白山開山一三〇〇年記念事業 能郷の能・狂言 (岐阜署 本巣市)
大河原国有林に鎮座する「能郷白山」は今年、開山一三〇〇年に当たります。これを記念して各種行事が計画されています。

⑤ 13日 付知峡山開き祭 (東濃署 中津川市)
中津川市付知地区にある、全キャンプ場のオープンを前にシーズンの安全を祈願。地元保存会による岐阜県重要無形文化財の木やり音頭とおんぼい節の披露があります。例年桜(キャンプ場敷地・公園内)が見ごろとなります。

⑥ 15日 立山黒部アルペンルート開通式 (富山署 立山町)
北アルプスを貫き、富山と長野を結ぶ世界有数の山岳観光ルートです。高さ二〇〇mにも迫る巨大な雪の壁「雪の大谷」(六月中旬までウォーク開催)が見どころです。

⑦ 15日 立山黒部アルペンルート開通式 (中信署 大町市)
大町市側の開通式は、JR信濃大町駅前で開催されます。大北各市町村や観光団体など関係者が参加しテープカットなどが行われます。

⑧ 19日 メルヘン街道開通式

下旬

(東信署 小海町、佐久穂町他)
小海町から麦草峠(標高二二二七m)を経由して茅野市を結ぶメルヘン街道(国道二九九号線)が開通します。付近には約二二〇〇mに位置する白駒の池があります。



⑨ 20日頃から むれ水芭蕉園 (北信署 飯綱町)
霊仙寺山国有林内の約五畝の湿地に約四一万株のミスバシヨウや黄色の可憐なりユウキンカが咲き誇ります。五月上旬からは約10万株のニリンソウも群生します。

⑩ 21日 「第四回善光寺ラウンドトレイル」 (北信署 長野市)
雪解け間もない大峰山国有林周辺において、概ね一、〇〇〇名規模のトレイルランが開催されます。

⑪ 21日 大鹿桜祭り (南信署 大鹿村)
大鹿村大河原大西公園では和太鼓、よさこい等、村内各種団体のステージ、食事、お土産物産の屋台が並びます。春の花々が咲き始め、夜間にはライトアップされます。

⑫ 22日 水木沢天然林オープン(予定) (木曽署 木祖村)
樹齢三〇〇年前後の木曾ヒノキやサワ

ラ、ブナ、ミズナラ、トチノキなど針葉樹と広葉樹の混交林です。「平成の名水百選」にも選ばれ、林内散策路も整備されています。

⑬ 23日 八島湿原山開き (南信署 下諏訪町)
標高一六〇〇mのビーナスラインの除雪も完了し、霧ヶ峰高原観光シーズンがスタートします。富士山、南・中・北アルプス、八ヶ岳連



峰、などの大パノラマが見どころです。
⑭ 24日 中央アルプス開山式 (南信署 駒ヶ根市)
中央アルプス千畳敷においての安全祈願祭とアルプホルンによるアトラクションが行われます。



⑮ 25日 南アルプス北部開山祭 (南信署 伊那市)
残雪の山々を背景に、南アルプススーパー林道沿いの歌宿において、訪れる人々の安全を祈願した神事とセレモニーが行われます。

⑬25日 美ヶ原高原開山祭

(中信署 松本市)

美ヶ原高原の、安全を祈願する開山祭が行われます。五月最終日曜日にはシーズン幕開けを告げる「美ヶ原牧場放牧祭」が開催されます。

⑭25日 県立自然公園「宇津江四十八滝」滝開き

(飛騨署 高山市)



猪臥山（いぶしやま）彦谷国（有林）から流れる急峻な谷間に大小一三の滝が流れています。（親孝行な「よそ八」を救った大蛇が滝となり、弘法大師が「よそ八は仏法四十八願を意味する」と言ったとされる伝説から四十八滝と呼ばれるようになったそうです。）

⑮27日 上高地開山祭

(中信署 松本市)

山の安全と繁栄を祈願して河童橋のたもとで開催されます。はじまりを合図するアルプホルンのファンファーレがシーズンの開幕を伝えます。この頃は、穂高連峰は真っ白な残雪に包まれ、梓川の水も冷たく、まだまだ冬の様相です。

⑯27日 乙女溪谷山開き

(東濃署 中津川市)



中津川市加子母地区にある溪谷で、加子母森林組合が主催し、山の安全と繁栄を祈念します。

⑰28日 戸隠森林植物園 開園

(北信署 長野市)

シーズン中は、野鳥観察をしながら二時間ほどで周遊できます。

(五月上旬頃までは、歩道付近に残雪があるため歩行に注意が必要です。)

周辺では、戸隠神社や杉並木、戸隠山国有林が水面に映る鏡池などがおすすめです。

⑱28日 森林交流館開館

(愛知所 瀬戸市)

森林林業や定光寺自然休養林に関連する展示施設です。土日祝日に開館します。

⑳28日 きららの里オープン

(愛知所 設楽町)

段戸高原県立自然公園の中央に位置する、森林環境教育やアウトドアを楽しむ宿泊施設（ログハウス）がオープンします。

㉑28日 赤沢自然休養林開園

(木曽署 上松町)

樹齢三〇〇年を超える木曾ヒノキ等が分布し、園内には木曾森林鉄道の車両や資料が保存されています。森林浴の発祥地としても有名です。

㉒28日 赤沢自然休養林トレッキングパズルラリー開始

(木曽森林ふれあい推進センター 上松町)

赤沢自然休養林開園と同時に開催します。三〇〇セットで無くなり次第終了しますので、早目の参加がおすすめです。

㉓29日 奥裾花自然園開園式

(北信署 長野市)

周囲を国有林に囲まれた広大な湿原において水芭蕉の群生を楽しむことができます。

㉔29日 富士見台恵那山山開き

(東濃署 中津川市)

恵那山、富士見台高原の1年間の安全を祈願する神事などが行われます。標高一七三九メートルの山頂からは三六〇度のパノラマが楽しめます。

掲載内容は、天候等により予告なく変更されることがあります。

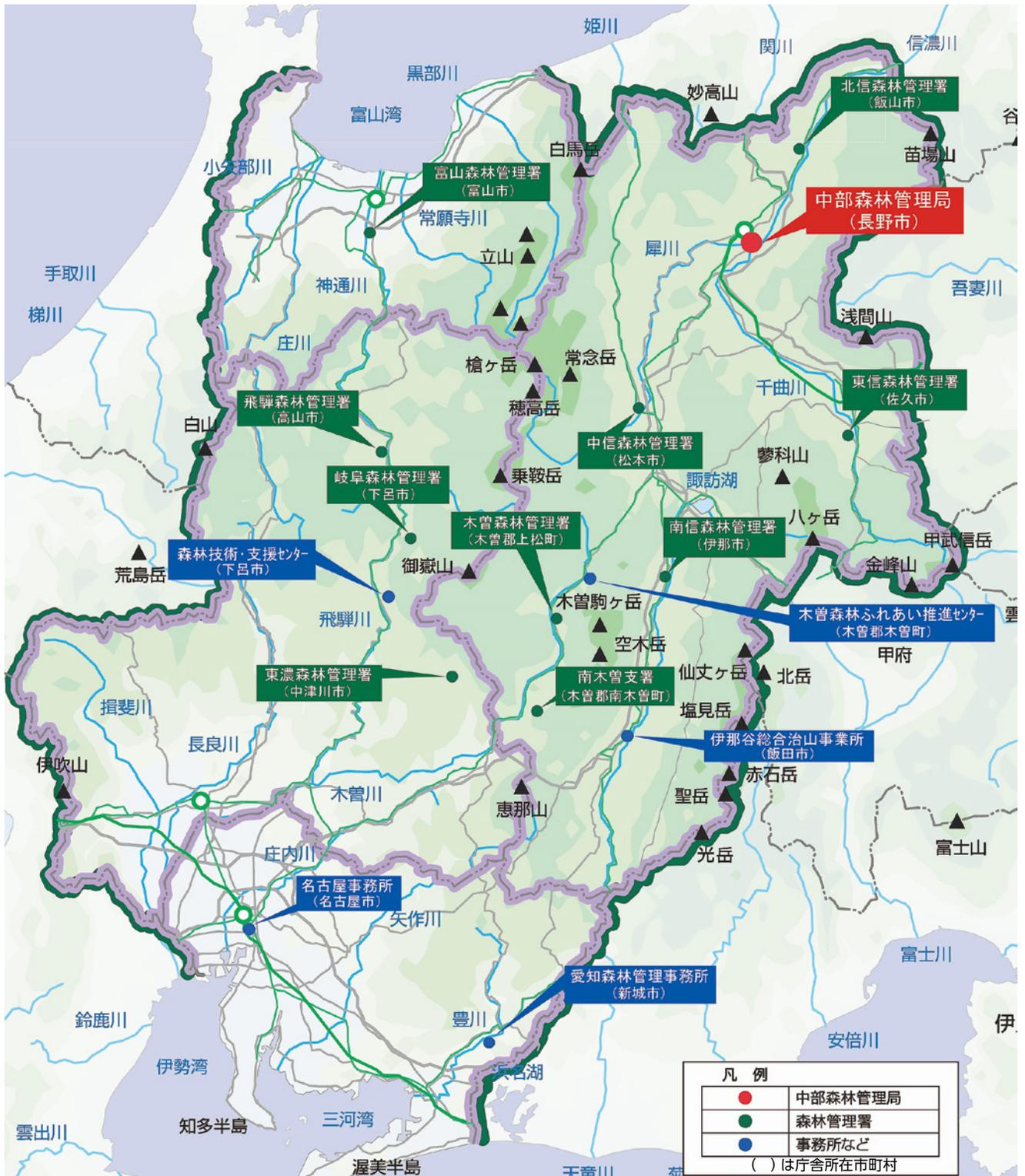
編集長だより あなたの写真を！お待ちしております

☆今月号から、中部森林管理局管内の国有林の見どころやイベント情報を、いち早くお知らせするコーナー「〇月の見どころ聴きどころ」を新設しました。

☆国有林には、インスタ映える場所も多いので、是非現地を訪れてみてください。また、ステキな写真が撮れましたらmigoro@maff.go.jpまで電子メールでお送りください。(1メール容量2MB以内)

☆特にステキな写真は、広報誌「中部の森林」の表紙に掲載し紹介させていただきます。あなたの写真が来月号の表紙を飾るかもしれません。投稿をお待ちしております。

◎ご投稿には、氏名またはニックネーム、掲載月、整理番号(4月なら①～⑫のいずれか)、撮影日を入力してお送りください。感想やコメントを添えていただいても構いません。



お問い合わせ先 中部森林管理局 〒380-8575 長野県長野市大字栗田715-5 TEL 050-3160-6507 FAX 026-236-2657

名古屋事務所	〒456-8620	愛知県名古屋市中熱田区熱田西町1-20	TEL 050-3160-6660	FAX 052-683-9269
富山森林管理署	〒939-8214	富山県富山市黒崎字塚田割591-2	TEL 050-3160-6080	FAX 076-424-4934
北信森林管理署	〒389-2253	長野県飯山市大字飯山1090-1	TEL 050-3160-6045	FAX 0269-62-4144
中信森林管理署	〒390-0852	長野県松本市島立1256-1	TEL 050-3160-6050	FAX 0263-47-4754
東信森林管理署	〒384-0301	長野県佐久市白田1822	TEL 050-3160-6055	FAX 0267-82-6959
南信森林管理署	〒396-0023	長野県伊那市山寺1499-1	TEL 050-3160-6060	FAX 0265-72-7774
木曾森林管理署	〒399-5604	長野県木曾郡上松町正島町1-4-1	TEL 050-3160-6065	FAX 0264-52-2582
※南木曾支署	〒399-5302	長野県木曾郡南木曾町吾妻3859-39	TEL 050-3160-6070	FAX 0264-57-2686
飛騨森林管理署	〒506-0031	岐阜県高山市西之一色町3丁目747-3	TEL 050-3160-6085	FAX 0577-34-8932
岐阜森林管理署	〒509-3106	岐阜県下呂市小坂町大島1643-2	TEL 050-3160-6090	FAX 0576-62-2503
東濃森林管理署	〒508-0351	岐阜県中津川市付知町8577-4	TEL 050-3160-5675	FAX 0573-82-2109
愛知森林管理事務所	〒441-1331	愛知県新城市庭野字東萩野49-2	TEL 0536-22-1101	FAX 0536-23-2254
森林技術・支援センター	〒509-2202	岐阜県下呂市森876-1	TEL 050-3160-6095	FAX 0576-25-2420
木曾森林ふれあい推進センター	〒397-0001	長野県木曾郡木曾町福島1250-7	TEL 0264-22-2122	FAX 0264-21-3151
伊那谷総合治山事業所	〒395-0001	長野県飯田市座光寺5152-1	TEL 050-3610-6075	FAX 0265-22-0149

※南木曾支署は平成31年1月(予定)まで庁舎工事のため上記に移転中です。